

# 日本健康心理学会メールマガジン No.41



2015年12月22日 第41号

## Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.36 文教大学 大木桃代先生

### 1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■日本心理学諸学会連合からの報告：公認心理師教育カリキュラム案について（学会事務局より）

公認心理師養成の大学・大学院カリキュラム案が、三団体会談（臨床心理職国家資格推進連絡協議会、医療心理師国家資格制度推進協議会、および日本心理学諸学会連合）で合意成立したとの報が入りました。一般社団法人日本健康心理学会は、日本心理学諸学会連合および医療心理士国家資格制度推進協議会のメンバーとして、公認心理師法設立に向けて積極的に推進してきた関係上、三団体会談の合意を尊重し、本カリキュラムを基本案として所轄官庁内で検討頂くように望みます。

詳しくは [http://jahp.wdc-jp.com/pdf/20151214\\_curriculum.pdf](http://jahp.wdc-jp.com/pdf/20151214_curriculum.pdf)

■日本健康心理学会第29回大会(岡山)に向けて一岡山の魅力／倉敷美観地区と大原美術館—（第29回大会準備委員会より）  
倉敷美観地区と呼ばれる倉敷川を中心とする一帯は、早くから干拓による田地の開発が進められ、1600年に備中国奉行領となり松山藩の玄関港として上方への物資の輸送中継地となりました。1642年に代官所が置かれ天領となり、幕府の保護や周辺の豊かな産物を背景に物資の集積地として発展しました。

そして、現在ではその中心に大原美術館があります。倉敷を基盤に幅広く活躍した事業家大原孫三郎が、親友である画家児島虎次郎を記念し、昭和5年に設立した日本最初の西洋美術中心の私立美術館です。孫三郎は虎次郎の才能と美術に対する真摯な姿勢を高く評価していたとのこと。虎次郎は制作に励むかわら、孫三郎の同意のもと、ヨーロッパの美術作品を選ぶ作業に熱中し、エル・グレコ、ゴッホ、モネ、マティス等、大原美術館の中核をなす作品を倉敷にもたらしました。そして現在、日本人の心情に裏打ちされた独特の個性を発揮するユニークな民間総合美術館として世界に知られるようになったとのこと。江戸の面影を残す白壁の町倉敷と大原美術館に、足をのばして見られてはいかがでしょう。

倉敷美観地区：<http://okayama-japan.jp/town/town-bicyu/132.html>

大原美術館：<http://www.ohara.or.jp/201001/jp/index.html>

第29回大会URL：<http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/>

### 2) 健康心理学コラムvol.36

「私のがんに罹った意義は？-トランスレーショナルリサーチに参加する患者さんの言葉から-」

（文教大学人間科学部心理学科 大木桃代先生）

皆さんは「トランスレーショナルリサーチ」または「探索型臨床研究」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか？

これは基礎医学で得られた成果に基づき、治療法がない患者さんのために新しい治療を開発する医学の臨床研究の一種です。中でもがんのトランスレーショナルリサーチは、一般に安全性の確認や投与量の検討を目的とする第一相または早期第二相の臨床試験に限定することが多く、医療行為としてその効果は確認されていません。

したがって、実施においては倫理性と科学性の遵守が必須となります。

そこで東京大学医科学研究所附属病院には、倫理性と科学性を保ってトランスレーショナルリサーチを遂行するために、薬剤師・看護師・臨床検査技師・管理栄養士・心理士から構成されるトランスレーショナルリサーチ・コーディネーターというチームがあります。私はこのチームの一員として、参加される患者さんとご家族へのカウンセリングを行い、さらに病態や状況の変化に伴う心理状態の推移やそれに影響を及ぼす要因の研究もしています。

トランスレーショナルリサーチに参加するがんの患者さんは、現在の医学においてはこれ以上生存期間を延長させる方法がないと告知された方々です。

患者さんは厳しい現実を知りながらも、最後の望みとして、わらをもすがら思いでこの開発段階の研究に参加されています。だからこそ、倫理性や科学性の遵守はもちろんのこと、患者さんの尊厳を保ち、つらい気持ちに寄り添う心理的なケアもより高次の倫理として重要なのです。

カウンセリングの過程で、「自分の研究参加が今後の医療の発展に寄与することが、自分のがんに罹った意義だ。」とおっしゃる方もいます。

そのように思えるようになるまで、どれだけ多くの涙を流されたことでしょうか。

たとえ身体が病気であっても、心は健康でいられるよう、その方の人生と一緒に振り返って、人生や出来事の意義を探すお手伝いができるのは光栄であり、かつ健康心理学を専門とする者の重大な責任だと思います。

参考文献：大木桃代（編著）（2014）、「がん患者のところに寄り添うために—サイコオンコロジーの基礎と実践—サイコロジスト編—」真興交易医書出版部

日本健康心理学会広報委員会  
<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます  
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>